

今回はこのテーマについて色々語りたいと思います。

今の西洋医療のやり方を『アロパシー医療』と言います。アロパシーは、「目先対処」の治療のことです。つまり、症状をとれば良いという医療です。「対症療法」とも言います。この治療の根本的発想は、まさに、人間をロボットのように考えたデジタル的な考え方です。部品交換的なやり方で部分だけを良くするやり方。具体的には薬と放射線と手術。このやり方が効を奏す場合もあります。救急病や急性病には力を発揮します。しかし、かような『西洋医療』による対症療法は慢性病にはからきし弱い』という特徴があります。根本的な健康獲得とは全く無縁なやり方であるからです。この西洋医療の治療を長く続けると、一時期は良くても、後々大変な病気に襲われるのが常です。良く似ているのは、『もぐら叩き』です。一個もぐらを叩くと一個出るならまだ良いですが、この西洋医療では、百個も千個も時には1億個ももぐらが出てくるから恐ろしい。いわゆる副作用です。死ぬほどの反動が後々やって来るのです。

例えば『抗がん剤』。抗がん剤でがん細胞が完全に死ぬことはありません。ある抗がん剤を投与すると、

努力しないで治そうとする西洋医療

私は下手ながらゴルフをやります。

ただ、一向に上達しなかったため、あるプロに習い始めました。少しの進歩はあったものの急速な進歩ではありませんでした。そこで私はプロに聞きました。「二気の上達するクスリはありますか？」そうしたらプロに「笑され、次のように言われました。「そんなものあるわけじゃないじゃない。適切な指導と不断的努力、それ以外ありません」と。まったくそのとおり。適切な教育の元に徹底的に努力する、それ以外あるはずがないということは、聞くまでもありませんでした。

このことは何もゴルフに限ったことではありません。すべてのスポーツでもあらゆることでも同様です。勉強だってまったく同様。徹底的に努力せずして成績が上がるはずがありません。

ところが、この世の中で、努力しないで良くしようとする目論んでいるまったく珍しい分野が存在します。それはなんと『今の西洋医療』の世界です。

今の西洋医療は、すべて基本的にはクスリか放射線治療か手術のいわゆる「対症療法(対処療法)」です。つまり目先対処のやり方です。このやり方を『アロパシー』といいます。

高血圧でも喘息でも糖尿病でも高コレステロール

と、一時的に良かったとしても(最近は一時的ですら良くならないケースの方が多い)しばらくするとがん細胞が蔓延し、もっと重い臓器に転移するなんてことがあります。こうなると、もはやどうしようもなくなくなってしまいます。この場合は1個のもぐらを叩いたら1億個ものもぐらが出てきたと言えます。がん細胞は、抗がん剤の攻撃に対抗し、無限に子供を産むからこのようなことが起こるので、「殺される前に子孫を残しておこう」というような感じですね。もし1個を殺そうとして1個を攻撃したら、1億個ものがん細胞が増殖したら堪りません。そんな反動が起きかねないのが抗がん剤なのです。ならばやらない方がはるかにマシ。がんでない病気もほとんど似たようなもの、治療が治療にならないのです。血圧が高いからといって降圧剤を投与すると、大変な副作用がやってきます。認知症やパーキンソン病や狭心症です。とにかく後々大変な病気になるのが西洋医療の『アロパシー医療』です。アロパシーの本質は後々の重病です。

一方、原因をただし、腸を改善し、血液をサラサラにし、細胞を良くする治療を『ナチュロパシー』と言います。具体的に言うと、断食をしばらくやり、ヴィーガンの食事を行うやり方です。

これこそ、人間を根本から治す真実の治療法なのです。その成果は限りなく大きいものがあるのです。

血症でも風邪や気管支炎でも胃炎でも大腸炎でもがんでも心臓病でも湿疹でも、とにかく何でもかんでもクスリを出して治療します。

しかし、一時は良くても後々大変なことになります。一時的に良くならないことも多いです。なぜなら病気の原因をたださず、クスリというある種の毒を入れるからです。

どんな分野でも『良い指導と不断的努力』が成長と上手になる唯一無二の手段と書きましたが、西洋医療だけがこの絶対的に必要な『努力すること』をしない分野なのです。

単に目先対処の治療(クスリ投与や放射線治療など)でごまかす体制をとっているのです。

これは驚くべきことです。なぜなら、『原因を取っていない』『原因の解除に向けて努力しない』ため、本質的にはまったく良くならないばかりか、後々かえってみじめなことになるからです。副作用も出るだろうし、余病(新しい病気)まで出たりします。

例えば、

・高コレステロール血症の人にスタチン系のコレステロール降下剤を投与すると、たいていの人は『うつ病』になりやすくなる(その結果自殺も増える)



・高血圧症の人に血圧降下剤を出すと、過半数は認知症になる可能性があったりする

・抗がん剤を飲ませ続けると、かえってがんは拡がり死にやすくなったりする

(NCI:アメリカ国立がん研究所発表)

・喘息患者にステロイドホルモン剤を飲ませ続けると、数年後必ず急死したりする(テレサ・テンがステロイドホルモン剤を飲み続けた結果、42歳で急死したのは典型的な例)

とにかく、西洋医療が目先対処(アロパシー治療)の治療をやり続けると、後々最悪な結果を招きやすいのです。

なんでも努力せずに一足飛びに良くすることができないのは、西洋医療でも同様だったのです。病気だっままさしく同様なのです

